

厚生労働科学研究費補助金（がん政策研究事業）  
分担研究報告書

がん患者に対するメンタルヘルスケアへのアクセス勧奨法の開発

研究分担者 井上佳祐 横浜市立大学精神医学教室助教  
島津太一 国立がん研究センター社会と健康研究センター予防研究部室長  
三角俊裕 横浜市立大学市民総合医療センター臨床統計学教室助教  
三枝祐輔 横浜市立大学医学部臨床統計学教室助教  
藤森麻衣子 国立がん研究センター社会と健康研究センター健康支援研究部室長  
内富庸介 国立がん研究センター中央病院支持療法開発部門長  
研究協力者 野口普子 武蔵野大学通信教育部人間科学部准教授  
研究代表者 松岡豊 国立がん研究センター社会と健康研究センター健康支援研究部長

研究要旨 第3期がん対策推進基本計画では、がん患者の自殺問題に取り組む必要性が指摘されている。自殺したがん患者は、高率に精神疾患を有することが知られており、がん患者の自殺対策においても、ポスター掲示やカード・パンフレット設置等により、精神科等の受診勧奨を行うことが考えられる。本分担研究では、メンタルヘルスケアへのアクセスを促すポスターやカード・パンフレットを病院内に掲示・設置することにより、精神科受診もしくは緩和ケアを受けたうつ病・適応障害・不安障害の診断がついた患者数をがん患者数で除した割合が増加するか否かを検討する。初年度は、1) 研究参加施設の募集、2) 精神的に不調ながん患者に対して、精神科受療を勧めるポスター・カードの作成、3) パイロット調査の実施、4) 本試験のデザイン検討を行った。

#### A. 研究目的

がん患者の自殺リスクは一般人口の約2倍であり、わが国においてがん診断後1年以内の自殺リスクが24倍と顕著に高いが、有効な自殺予防対策が立てられていない。

自殺予防介入は、全体的、選択的、個別的予防介入という3つの理論的枠組みで整理される（WHO, 2014）。全体的戦略は、援助へのアクセスを増やす等、物理的環境を改善することで、健康を最大限に保持しながら自殺の危険を最小限にするもので、全人口に届くように計画される。自殺により亡くなった者は、高率に精神疾患を有することが知られており、自殺対策として、ポスター掲示やカード・パンフレット設置等による、精神科等の受診勧奨が行なわれてきた。

一般的な自殺既遂者と同様、自殺したがん患者は、高率に精神疾患を有することが知られており、がん患者の自殺対策においても、ポスター掲示やカード・パンフレット設置等により、精神

科等の受診勧奨を行うことが考えられる。しかし、がん患者の自殺予防のための、ポスター掲示やカード・パンフレット設置については行われておらず、その効果は不明であり、本調査でその効果を明らかにする。

#### B. 研究方法

初年度は、1) 研究参加施設の募集、2) 精神的に不調ながん患者に対して、精神科受療を勧めるポスター・カードの作成、3) パイロット調査の実施、4) 本試験のデザイン検討を進めた。

##### 【研究参加施設の募集】

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会を通して研究参加施設の一次募集を行った。

##### 【ポスター・カードの作成】

自殺予防対策を行っている団体等の関係者、がん患者・家族等へのヒアリングを行った。ヒアリング結果からメンタルヘルスケアへのアクセスを促すコピー、ポスターデザイン、小配布物の

形やデザインを決定、パイロット調査で使用するポスター・カードを作成した。

#### 【パイロット調査】

横浜市立大学附属市民総合医療センターにおいてパイロット調査を実施することとし、そのプロトコルを作成した。横浜市立大学臨床統計学教室から生物統計家が参画した。パイロット調査の概要は以下の通りである。

ポスター・カードを横浜市立大学附属市民総合医療センターに掲示・設置する。電子カルテ、DPC データを用いて、対照期間の 3 か月間およびアクセス勧奨を行う試験期間 3 か月間に初診となったがん患者について調査する。がん患者のうち、精神科受診もしくは緩和ケアを受けたうつ病・適応障害・不安障害等の診断がついた患者数を、がん患者数で除した割合を求める。アクセス勧奨試験期間における割合と対照期間における割合を比較し、その増減を確認する。

#### 【本試験】

生物統計家とともに、目的に合致しかつ実現可能な研究デザインを検討する。研究参加の意思表示をした施設を訪問・打合せを行った。

施設の準備状況を検討するために、海外の普及と実装研究において、エビデンス実装の阻害・促進要因を分析するために広く活用されている「実装研究のための統合フレームワーク (consolidated framework for implementation research: CFIR)」を参照し、客観的指標の導入を試みた。今回用いた評価項目は以下の通りである。①介入の特性：適応性（現場のニーズを満たすために、介入が適応、調整、洗練、再考案される度合い）、②内的環境：実装風土および実装の準備、③プロセス：巻き込み（介入の実装と使用を行う際にさまざまな戦略を通じて、適切なスタッフを引きつけ巻き込む）。これらについて 3 名の研究者が研究協力施設との打ち合わせ後に評価を行った。

### C. 研究結果

#### 【研究参加施設の募集】

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会（平成 30 年 7 月 9 日）を通して研究参加施設の一次募集を行ったところ、新潟県立がんセンター新潟病院、高知大学医学部附属病院、茨城県立中央病院、東京都立多摩総合医療センターから参加の意思表示があった。

#### 【ポスター・カードの作成】

ヒアリングに基づき、株式会社博報堂の協力を得て、下記のポスター・カードを作成した。

ポスター・カード内容は、行動変容テクニックのうち、特に「信頼できる情報源（行動に対する賛成、反対の評価を信頼できる情報源から言葉、視覚的なコミュニケーションツールで示す）」というテクニックを用いたものとした。これらの資料において、メンタルヘルスクアを受けることにより、精神面の改善が得られたという賛成の評価を、わかりやすく具体例を挙げて示した (Appendix\_ポスター及びカード参照)。

#### 【パイロット調査】

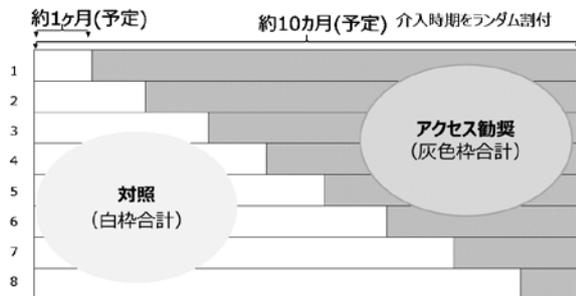
横浜市立大学附属市民総合医療センターにて 2019 年 3 月 1 日から 5 月 31 日の間に、ポスター・カードを病院内に掲示・設置した。電子カルテ、DPC データを用いて、横浜市立大学附属市民総合医療センターに 2018 年 3 月 1 日より 5 月 31 日（対照期間）、および 2019 年 3 月 1 日より 5 月 31 日（アクセス勧奨期間）の間に初診となったがん患者について調査した。

現在パイロット調査進行中のため結果を示すことができないが、観察期間終了後、直ちにがん患者のうち、精神科受診もしくは緩和ケアを受けたうつ病・適応障害・不安障害等の診断がついた患者数を、がん患者数で除した割合を求める。アクセス勧奨群における割合と対照群における割合を比較し、その増減を確認する。

#### 【本試験】

定例会議を繰り返し、本試験の研究デザインについて議論した。データセンターを株式会社

アイクロスジャパンに委託した。研究デザインは stepped-wedge, cluster-randomized trial とし、介入時期をランダム割付することにした（下図）。



がん診療連携拠点病院を中心とした複数施設において 2019 年度第 3 四半期より 2020 年度第 2 四半期にかけて実施することを計画した。がん患者のうち、精神科受診もしくは緩和ケアを受けたうつ病・適応障害・不安障害等の診断がついた患者数を、がん患者数で除した割合を、アクセス勧奨期間・対照期間のそれぞれにおいて求める。アクセス勧奨期間における割合と対照期間における割合を比較し、その増減を確認する。

本試験に参加意思を表明した新潟県立がんセンター新潟病院、高知大学医学部附属病院、東京都立多摩総合医療センターを訪問、施設の関係者と打合せを実施した。打ち合わせ後に、研究分担者が CFIR を用いて施設の評価を行った。介入の特性のうち適応性については、新潟県立がんセンター新潟病院および東京都立多摩総合病院医療センターは良好であったが、高知大学医学部附属病院については、十分ではなく、介入のためには調整を要すると思われた。内的環境のうち、実装風土については 3 施設とも良好で、本試験介入に対して前向きな姿勢が見られた。実装の準備については、新潟県立がんセンター新潟病院および東京都立多摩総合病院医療センターは良好であったが、高知大学医学部附属病院については、不十分で、本介入を行うための明確な指標等は見当たらなかった。プロセスのうち、巻き込みについては、各施設ともに、新潟県立がんセンター新潟病院については、院内外の広報

誌に本介入を掲載する予定であるなど、良好なものであった。東京都立多摩総合医療センターにおいては、院長が多部署に迅速に連絡が行われるなど、良好と思われた。高知大学医学部附属病院は、緩和ケアおよび精神科に関する部門以外に対しての巻き込みは、現時点では見られず、不十分であると思われた。

（倫理面への配慮）

パイロット調査は、横浜市立大学附属市民総合医療センター倫理委員会の承認を得て実施した（2019 年 2 月 6 日承認）。本調査も同様に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守し、施設の倫理委員会の承認を得る予定である。

#### D. 考察

わが国のがん患者の自殺は、診断後 1 年以内の自殺率が極めて高いという報告があるが、拠点病院等であっても相談体制が十分ではないという状況にある。第 3 期がん対策推進基本計画では、「国は、拠点病院等におけるがん患者の自殺の実態調査を行った上で、効果的な介入のあり方について検討する。また、がん患者の自殺を防止するためには、がん相談支援センターを中心とした自殺防止のためのセーフティネットが必要であり、専門的・精神心理的ケアにつなぐための体制の構築やその周知を行う」ことが記された。これらの背景を踏まえ、本研究では、WHO の自殺予防戦略のうち全体的予防介入（援助へのアクセスを増やす等、物理的環境を改善することで、健康を最大限に保持しながら自殺の危険を最小限にするもので、全人口に届くように計画）を採用し、がん患者に対するメンタルヘルスケアへのアクセス勧奨法の開発を行うこととした。

初年度は、1) 研究参加施設の募集、2) 精神的に不調ながん患者に対して、精神科受療を勧めるポスター・カードの作成、3) パイロット調

査の実施、4) 本試験のデザイン検討を行い、概ね順調に進行した。

研究参加施設については、公募により拠点病院 3 施設が集まった。施設訪問時に実施した CFIR 評価では、項目ごとの幅にばらつきがみられたことから、本試験のプロトコール作成においては、施設毎の特性を反映させることが必要と考えられた。今後、上記の 3 施設に加え、横浜市立大学附属病院の参加を予定している。また、他に参加希望する施設があり、本試験の参加施設は合計 5-10 程度になる予定である。

精神科受療を勧めるポスター・カードについては、図に示す通り「がんには、こころのケアを。」というメッセージが伝わりやすい 3 種類のポスター（罹患者数の多い、胃がん、大腸がん、肺がん）が完成した。診断後早期の自殺が多いという背景を踏まえて、がん診断後に気持ちの辛さを感じた時に、相談できる人・場所があること、そして相談することによって、気持ちの辛さが和らいだという物語にがん患者さんのイラストを添えて作成した。

パイロット調査については、対照期間に比して、アクセス勧奨期間の精神科受診・緩和ケア受療したうつ病・適応障害・不安障害患者数が増えることを予測している。令和元年 5 月末にパイロット調査が終了次第、横浜市立大学附属市民総合医療センターのデータ収集・解析を実施する。そしてパイロット調査の結果を踏まえ、生物統計家とともに本試験のサンプルサイズを決定する。予備調査における実施上の問題点・課題を抽出すると同時に、本試験への参加意思を表明している施設での打合わせ内容、そして CFIR 評価（適応性（現場のニーズを満たすために、介入が適応、調整、洗練、再考案される度合い）、実装風土および実装の準備、巻き込み）を本試験の研究計画書に反映させる予定である。

本試験のデザインについては、生物統計家との相談を経て、全てのクラスター（地域や施設な

どの一つのまとまり）が介入を受けることが可能な点、介入開始の準備が複雑な際に経済性や効率に優れている点に注目し、クラスターレベルで介入時期をランダム化し、順番に観察期から介入期に移行（介入の導入時期をずらして順次適用）する試験デザインである Stepped Wedge Cluster Randomized Trial を採用することにした。

## E. 結論

「がん患者に対するメンタルヘルスケアへのアクセス勧奨法の開発」を進めるため、初年度は 1) 研究参加施設の募集、2) 精神的に不調ながん患者に対して、精神科受療を勧めるポスター・カードの作成、3) パイロット調査の実施、4) 本試験のデザイン検討を行った。

## F. 健康危険情報

該当しない

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

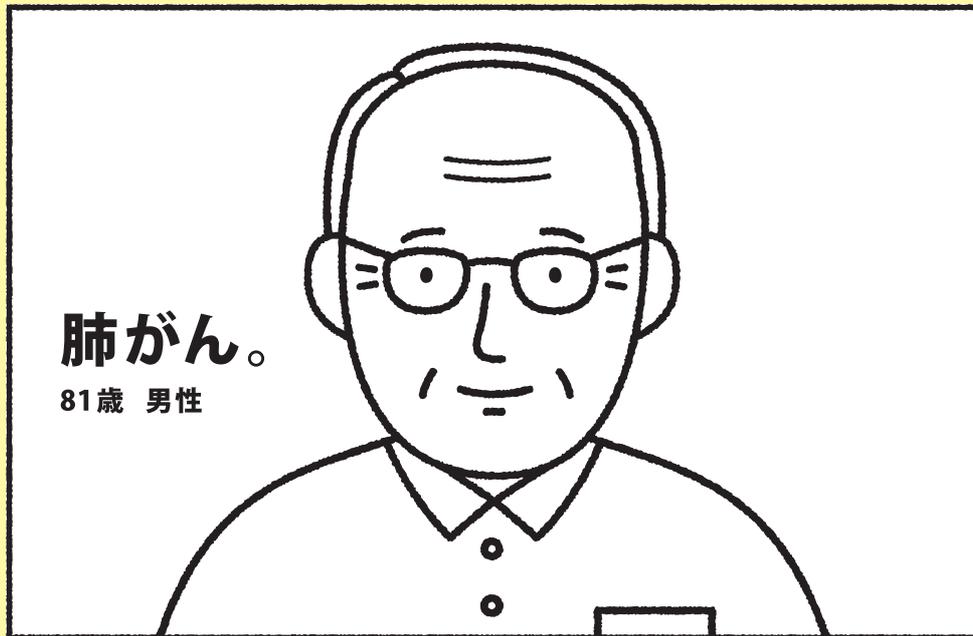
1) 井上佳祐, 日野耕介, 伊藤翼, 松森響子, 六本木知秀, 野本宗孝, 高橋雄一, 平安良雄: 救命救急センターに入院となった、高齢の自殺未遂者の臨床的特徴. 総合病院精神医学 (印刷中).

### 2. 学会発表

- 1) Inoue K, Fujimori M, Kawanishi C, Akechi T, Uchitomi Y, Matsuoka YJ: Attitudes toward suicide prevention, suicide intervention skills and communication in medical staffs concerned with cancer patients, 8th Mind-Body Interface International Symposium, Taiwan, Taichung, 2018, 10.26-28
- 2) 井上佳祐, 藤森麻衣子, 河西千秋, 明智龍男, 内富庸介, 松岡豊: がん診療に携わる医療者の、自殺に対する態度・対応技術・

コミュニケーション，第31回日本総合病院精神医学会総会，東京，2018.11.30-12.1

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）  
なし



**肺がん。**

81歳 男性

**告知後すぐに、がん相談支援センターに行きました。**

家族も、蓄えもなく、年金だけが頼りの生活を続けて二十数年。

すでに高血圧、軽度の糖尿病の治療を受けている中での肺がん診断。

「もう楽になりたい」そんな、あきらめの気持ちがよぎる中、

先生の勧めで、がん相談支援センターに行きました。

センターでは、担当の方が私の話を優しく聞き

すぐに心療内科の受診につなげてくれました。

診察は時間にしたら、ほんの数十分のことでしたが、

一人じゃないという安心感で、驚くほど心が軽くなりました。

今は、心療内科に通いながら、自分のペースで、がんと向き合っています。

# がんには、心のケアを。

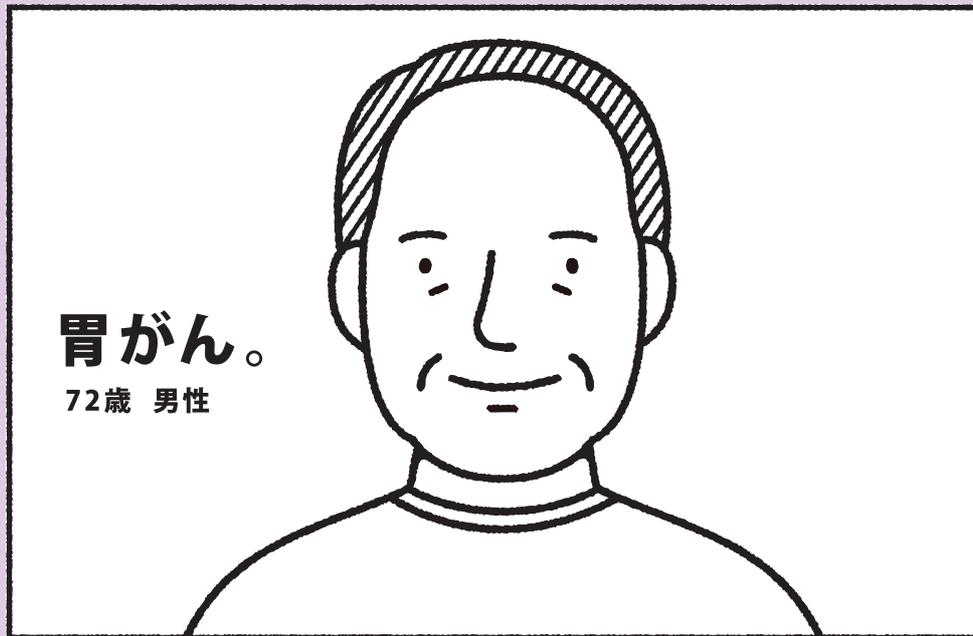
まずは、ご相談ください。

- メンタルヘルスケアに関わる診療科（精神科/心療内科）
- 院内のがん相談支援センター

詳細については  
こちらを  
ご覧ください。



本ポスター・チラシは、厚生労働省科学研究費補助金によって作成されています。



### 告知から一週間後、担当医に相談しました。

胃がんを告知されてから、誰にも相談できず一週間がすぎました。

車椅子生活をおくる妻にとっては、私だけが頼り。

心配をかけると思うと、どうしても伝えられませんでした。

それでも、耐えがたい腹痛と、死への恐怖は、一人で抱えるには、あまりにも重たく  
わらにもすがる思いで、担当医に相談。

そこで、紹介してもらったのが精神科でした。

正直、はじめは抵抗がありましたが、ここで先生とお話したことで

がんによる、心への負担が想像以上のものだとということに気づけました。

一人で抱え込まず、相談してよかったです。

## がんには、心のケアを。

まずは、ご相談ください。

- メンタルヘルスケアに関わる診療科(精神科/心療内科)
- 院内のがん相談支援センター

詳細については  
こちらを  
ご覧ください。



本ポスター・チラシは、厚生労働省科学研究費補助金によって作成されています。



### 告知当日、看護師さんに相談しました。

告知を受けた時、頭の中が真っ白になりました。

そんな中、追い打ちをかけるように排便に支障がでる可能性がある話など、現実的な問題を突きつけられます。

怖い。家族に申し訳ない。どうしたらいいかわからない。

待合室で、ただただ落ち込んでいると、その状況に気づいた看護師さんが、担当医と連携をとり精神科を紹介してくれました。

先生と会話する中で、自分の置かれた状況が理解でき、

その後も、落ち着いて家族に伝えることができました。

今は、その精神科に通いながら、がんの治療を進めています。

## がんには、心のケアを。

まずは、ご相談ください。

- メンタルヘルスケアに関わる診療科（精神科/心療内科）
- 院内のがん相談支援センター

詳細については  
こちらを  
ご覧ください。



本ポスター・チラシは、厚生労働省科学研究費補助金によって作成されています。

## つらい気持ちに 寄りそう専門家がいます。

「これからどうやって生きていけばいいんだろう」「消えたい・・・もう生きるのをやめたい」  
そんなつらい思いをひとりで抱え込まないでまずは相談してみませんか。

### 相談先一覧

下記の電話連絡先は、たくさんの人から集中して電話がかかっていてつながりにくい場合があります。  
時間をおいてかけなおすか、別の連絡先に電話をおかけください。

#### 直接相談（横浜市立大学附属市民総合医療センター内）

##### ■ 精神医療センター

現在受診している診療科・病院・診療所の主治医に受診の希望をお伝えください。  
他院からの紹介の場合には、診療情報提供書が必要となります。

##### ■ がん相談支援センター

**TEL 045-261-5656(内線7800)**

月～金 9:30～16:30 ※祝日・年末年始を除く

### 電話相談

#### 〈こころの健康についてお悩みのとき〉

##### 神奈川県こころの電話相談

**TEL 0120-821-606**

月～金 9:00～21:00(受付は20:45まで)  
※祝日・年末年始を除く

##### 横浜市こころの電話相談

**TEL 045-662-3522**

月～金 17:00～21:30、  
土・日・祝日 8:45～21:30

##### 各保健福祉事務所／福祉保健センター

月～金 8:45～17:00 ※祝日・年末年始を除く

#### 〈死んでしまいたいほどつらいとき〉

##### 横浜いのちの電話

**TEL 045-335-4343** 365日 24時間受付

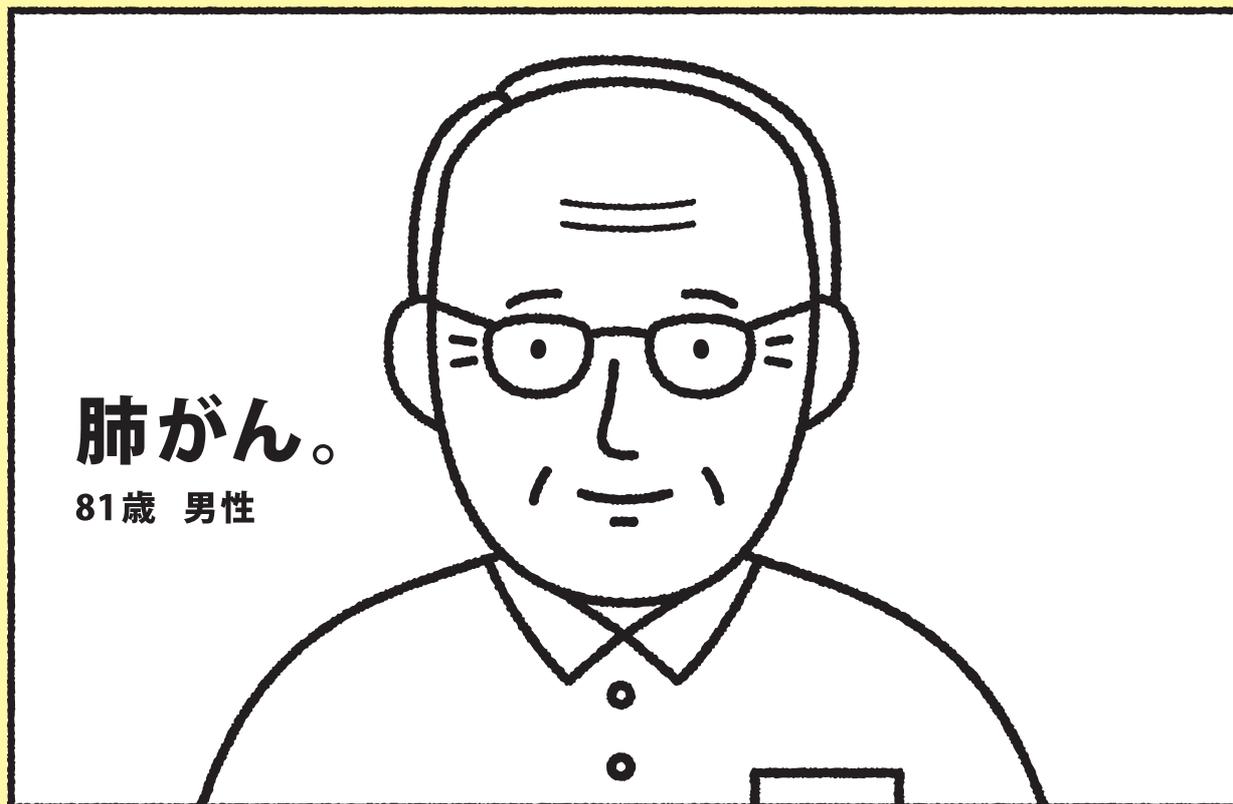
#### 〈生活や仕事についてお悩みのとき〉

##### かながわ労働センター 本所(横浜市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町の方)

**TEL 045-662-6110**

月～金 8:30～12:00、13:00～17:15(火曜は19:30まで)  
日 9:00～12:00、13:00～17:00 ※祝日・年末年始を除く

このチラシは、主にがん患者さまのために作られたものです。



# 肺がん。

81歳 男性

## 告知後すぐに、がん相談支援センターに行きました。

家族も、蓄えもなく、年金だけが頼りの生活を続けて二十数年。

すでに高血圧、軽度の糖尿病の治療を受けている中での肺がん診断。

「もう楽になりたい」そんな、あきらめの気持ちがよぎる中、

先生の勧めで、がん相談支援センターに行きました。

センターでは、担当の方が私の話を優しく聞き

すぐに心療内科の受診につなげてくれました。

診察は時間にしたら、ほんの数十分のことでしたが、

一人じゃないという安心感で、驚くほど心が軽くなりました。

今は、心療内科に通いながら、自分のペースで、がんと向き合っています。

# がんには、心のケアを。

まずは、ご相談ください。

- メンタルヘルスケアに関わる診療科（精神科/心療内科）
- 院内のがん相談支援センター

詳細については  
こちらを  
ご覧ください。



本ポスター・チラシは、厚生労働省科学研究費補助金によって作成されています。

# 胃がん。

72歳 男性



## 告知から一週間後、担当医に相談しました。

胃がんを告知されてから、誰にも相談できず一週間がすぎました。

車椅子生活をおくる妻にとっては、私だけが頼り。

心配をかけると思うと、どうしても伝えられませんでした。

それでも、耐えがたい腹痛と、死への恐怖は、一人で抱えるには、あまりにも重たく  
わらにもすぎる思いで、担当医に相談。

そこで、紹介してもらったのが精神科でした。

正直、はじめは抵抗がありましたが、ここで先生とお話したことで  
がんによる、心への負担が想像以上のものだという事に気づけました。

一人で抱え込まず、相談してよかったです。

# がんには、心のケアを。

まずは、ご相談ください。

- メンタルヘルスケアに関わる診療科(精神科/心療内科)
- 院内のがん相談支援センター

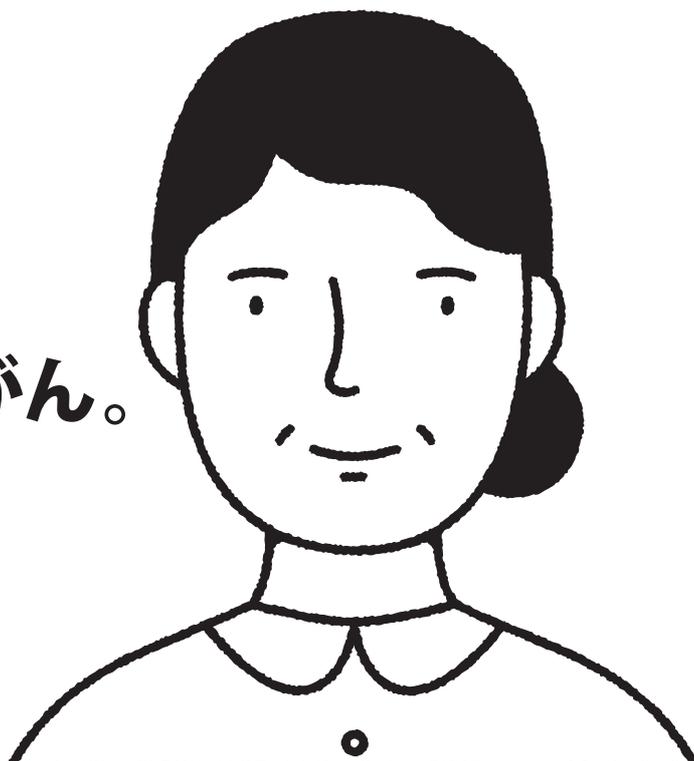
詳細については  
こちらを  
ご覧ください。



本ポスター・チラシは、厚生労働省科学研究費補助金によって作成されています。

# 大腸がん。

62歳 女性



## 告知当日、看護師さんに相談しました。

告知を受けた時、頭の中が真っ白になりました。  
そんな中、追い打ちをかけるように排便に支障がでる可能性がある話など、現実的な問題を突きつけられます。  
怖い。家族に申し訳ない。どうしたらいいかわからない。  
待合室で、ただただ落ち込んでいると、その状況に気づいた看護師さんが、担当医と連携をとり精神科を紹介してくれました。  
先生と会話する中で、自分の置かれた状況が理解でき、  
その後も、落ち着いて家族に伝えることができました。  
今は、その精神科に通いながら、がんの治療を進めています。

# がんには、心のケアを。

まずは、ご相談ください。

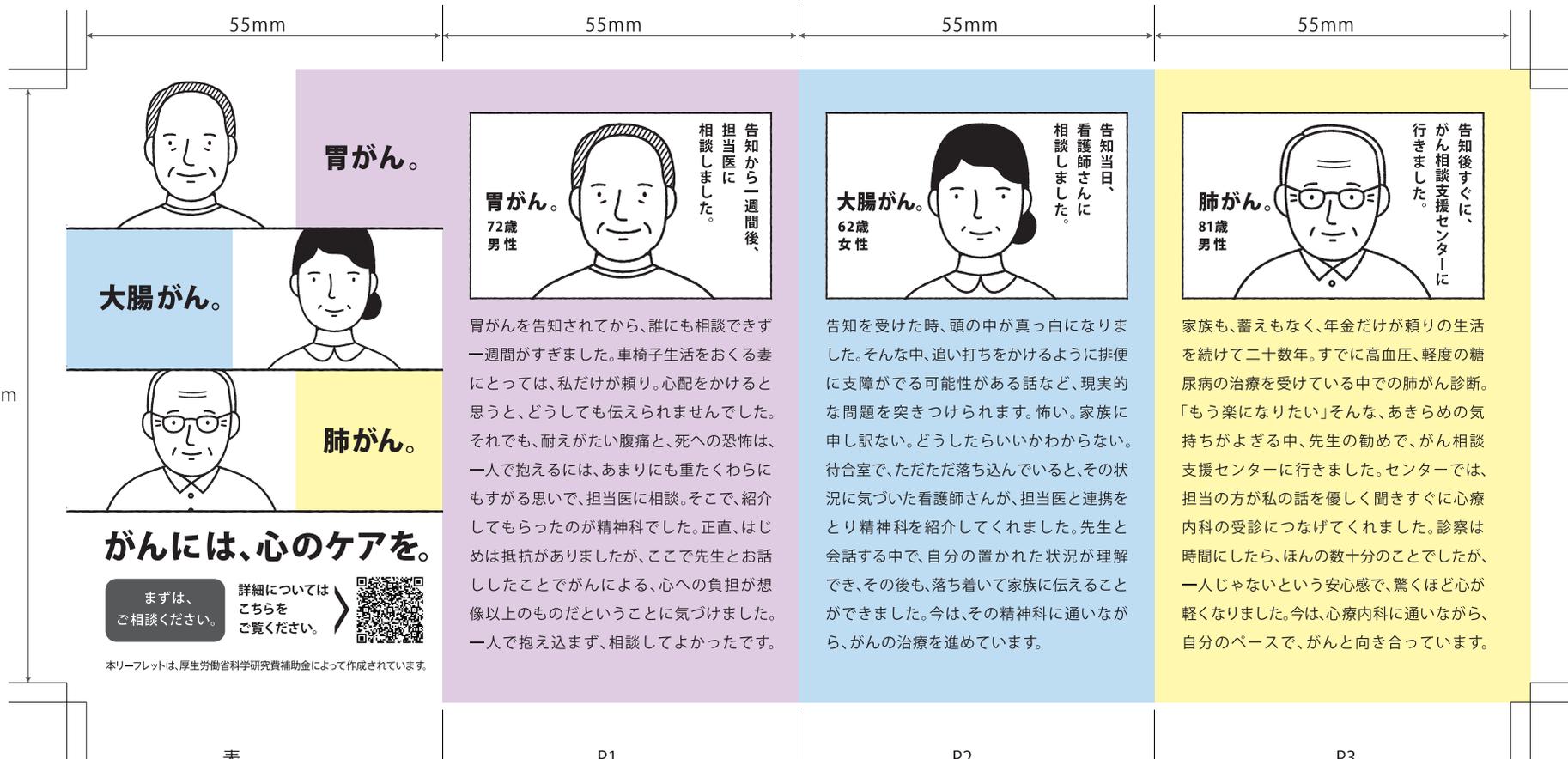
- メンタルヘルスケアに関わる診療科(精神科/心療内科)
- 院内のがん相談支援センター

詳細については  
こちらを  
ご覧ください。



本ポスター・チラシは、厚生労働省科学研究費補助金によって作成されています。

Card Leaflet (size : 55mm×91mm)



Card Leaflet (size : 55mm×91mm)

つらい気持ちに  
寄りそう  
専門家がいます。

「これからどうやって  
生きていけばいいんだろう」  
「消えたい…  
もう生きるのをやめたい」  
そんなつらい思いをひとりで  
抱え込まないで  
まずは相談してみませんか。

P4

相談先一覧

下記の電話連絡先は、たくさんの人から集中して電話がかかっているつながりにくい場合があります。  
時間をおいてかけなおすか、別の連絡先に電話をおかけください。

直接相談

(横浜市立大学附属市民総合医療センター内)

■ 精神医療センター

現在受診している診療科・病院・診療  
所の主治医に受診の希望をお伝えく  
ださい。他院からの紹介の場合には、  
診療情報提供書が必要となります。

■ がん相談支援センター

TEL 045-261-5656  
(内線7800)

月～金 9:30～16:30  
※祝日・年末年始を除く

P5

電話相談

〈こころの健康についてお悩みのとき〉

□ 神奈川県こころの電話相談

TEL 0120-821-606

月～金 9:00～21:00  
(受付は20:45まで)

※祝日・年末年始を除く

□ 横浜市こころの電話相談

TEL 045-662-3522

月～金 17:00～21:30  
土・日・祝日 8:45～21:30

□ 各保健福祉事務所/  
福祉保健センター

月～金 8:45～17:00

※祝日・年末年始を除く

P6

〈死んでしまいたいほどつらいとき〉

□ 横浜いのちの電話

TEL 045-335-4343

365日 24時間受付

〈生活や仕事についてお悩みのとき〉

□ かながわ労働センター 本所

(横浜市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、  
三浦市、葉山町の方)

TEL 045-662-6110

月～金 8:30～12:00、  
13:00～17:15 (火曜は19:30まで)  
日 9:00～12:00、13:00～17:00  
※祝日・年末年始を除く

P7